

「ツバルと未来」

身のまわりにありふれていて、普段は気にもかけない「水」。

しかし、水なしには生命が地球上に誕生することにはなかった。固体、液体、気体とその状態を変えて、地球上に存在し、水なしにはどんな命も永らえることができず、文明もまた水に育まれてきた。

さて、現在、人間が排出する温室効果ガスによって、地球温暖化が進んでいる。

地球の気温は、単に上昇しているばかりかその上昇ペースは、急加速しているのだ。

温室効果ガスによる地球温暖化の影響で、近年、海面が少しずつ上昇し、二〇世紀には約三〇センチメートルも海面が上昇したそう

だ。
また、二一世紀には海面が最大で約一メートルも上昇すると予測されている。

山添村立山添中学校 三年

北村 悠

地球の気温が上昇すれば、気候が変動し、農作物の収穫量が減少するため、地球上の水が溶ける。そして、海面が上昇し、地球上の豊かな「水」をもたらす雪原や氷河が縮小するというのがこの「ツバル」を壊滅に追い込もうとしているのだ。

南太平洋の島国「ツバル」。

海面の上昇により、地球で最初に海に消えようとしている、人口一万人ちよつとの小国に以前からぼくは少し、興味をもっていた。日本やアメリカ、イギリスなどの先進国が出す温室効果ガスは温室効果ガスとはまったく無縁の「ツバル」を壊滅に追い込もうとしている。

定期的な洪水がツバルを襲い、海岸浸食によって、土地が日に日に削られている。

内陸洪水と海岸浸食がツバルの人々の生活を日常的に脅かし、国の存立基盤をも揺るが

している。

ツバルでは、洪水が人々の日常生活の一部となつてしまつている。淡々と靴を脱いで、ズボンを上げて、深い水たまりを歩いていく人々。洪水という惨状に直面しながら、誰も深刻な顔を見せないようだ。

ツバルのような海面上昇の被害を最も強く受けている国々の大半が、自分自身では温室効果ガスをほとんど排出していないという事実を知つて、ぼくは少し悲しくなつた。

自分たちが生まれてきたかけがえのない国を、先祖代々守つてきた大切な土地を手放さなければならぬという現実を受け入れることができないだろうか。

ぼくは「ツバル」という国を知つて、自分には何ができるのかを考えてみた。

非力なぼくにできること……。

それは、限りある資源を大切にしていこうとだ。

大量生産、大量消費、大量廃棄の世の中をほんのわずか少しでも変えていくことだ。

普段は気にもかけない「水」を大切にすることだけで変わるかもしれない。

ありふれている「水」だからこそ、地球上の誰もが知つている「水」だからこそ、きつと「水」には大きな役割があるんだと思う。

もし、私たちの使うシャンプーの量を一ミリリットルでも減らしたなら、水をきれいにするためのエネルギーをほんの少し減らすことができる。水をきれいにするためのエネルギーをほんの少し減らすことができたなら、温室効果ガスの量をわずか少し減らすことができる。温室効果ガスの量をわずか少し減らすことができたなら、海面上昇ペースは少しおさえることができ、ツバルを救うことができるかもしれない。

より多くの人が毎日続けることでツバルの未来は変わっていく。

「水」という大きなパワーは世界を変える力をもっている。

ぼくたちは「水」と共に生きていく。